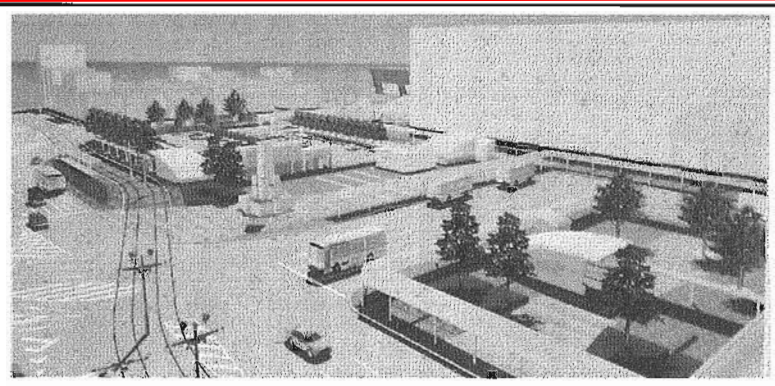
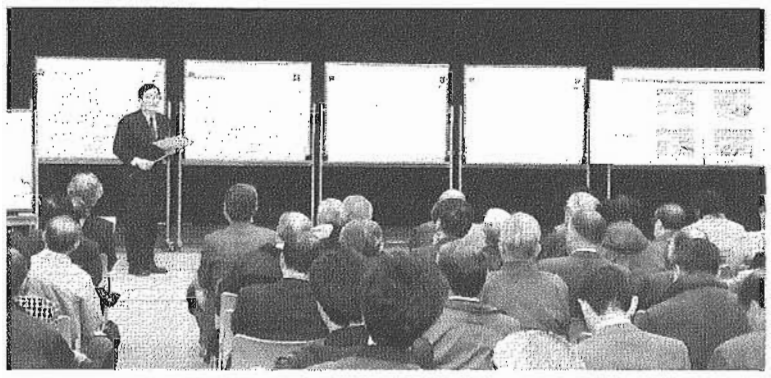
鹿児島建設新聞 日刊（日・祝日休刊、月曜版随時） （第三種郵便物認可）

西駅東口駅前広場地元説明会

整備の意義や概要説明など





西駅東口駅前広場完成パース図（上）と市民ら121人が参加した説明会

鹿児島市は25日、鹿児島市の勤労者福祉交流センターで西鹿児島駅東口駅前広場整備に係る地元説明会を実施し、地元住民や事業に関心のある市民ら121人が参加した説明会。

中、広場整備の意義や概要の説明が行われた。

事前に配布されたパンフレットを持参して集まった参加者を前に都市再開発課の浜田光隆課長が「地域住民の理解と協力が必要。機能性の高い広場整備を行っていきたい」と挨拶。同課の川辺充二主幹が計画配置図や完成パースを基に事業概要や今後の事業の進め方などについて分かりやすく説明した。

住民との質疑応答では、「地下街としての利用は」「ナポリ通りに横断歩道は設置しないのか」「自転車の通行方法は」「エレベーターやエスカレーターの運転時間は」などといった生活に密着した質問が多く出され、これに対して当局は「横断歩道の設置を前提に県警と検討している」「エレベーターは24時間運転で、感知センサーなどを備えたものも検討している」などと答えた。

同事業は、各種交通機関の円滑な乗り継ぎを図る交通広場や都市の憩いの場としての環境広場などを基本に、バスターミナル（19停留所）やタクシープール（約40台）の集約、市電軌道の広場内への引き込み、約400平方㍍の地下広場を中心とした地下道の設置などを盛り込んでいる。現在、広場内の公共地下通路躯体工を3社JVの公募型で27日まで入札参加者を募っている。

説明会終了後、浜田課長は「市民の関心の高さがうかがえた。施工業者が決まり次第、業者を交えた形で再度説明会を実施したい」と語った。

明日に駆ける

初の現場管理に奮闘

中央造園土木㈱ 上妻 歩さん

県立短期大学生活科学科を卒業後、平成11年に入社し、2年目。社ではCADを駆使して外構の設計を行うとともに、花壇管理の現場代理人も務めている。

「ゼロからのスタートでしたが、先輩方が何でも教えてくれますので、楽しく働かせていただいています」と笑顔で話す。

学校では衣食住全般について知識を得た。設計に興味があり、この道に進んだが、CADは初体験。「1週間くらいの研修の後は実践でした」。さらりと言うものの、当人の努力が今日を物語る。

今年、初めて鹿児島市の鴨池文化通り並びに市民文化センター内花壇の現場代理人を担当。行政担当者との打ち合わせから、プランの検討、写真帳の作成等を行う。夏場の草取り、水かけの大変さも「花が咲いている時期は、うれしいですね」と喜びを語る。

「今やれることは、今済ます」がモットー。将来は経験を積んで、造園施工管理技士に挑戦する夢も持つ。

鹿児島市皇徳寺台5丁目13－16。

鹿児島銀行

新設住宅 最近の県内景況

3カ月連続マイナス

鹿児島銀行は26日、最近の県内景況は発表した。総括では「景気後退が続いている」と報告し、建設関連は「低調に推移している」とまとめた。

詳細報告では、公共工事発注額（11月）は前年を下回り、業者受注状況は厳しい状況が継続。民間建築も、一部に大型物件が見られたものの、全体的に件数が少なく、激しい受注競争が続いているとまとめた。その中、新設住宅着工戸数（10月）は、前年比11・5％減と3カ月連続で前年を下回り、用途別には貸家が18・1％増となったものの、持家・分譲は20・8％、57・6％の各大幅減となった。

また、主要建設資材卸売業者の売上げ（11月）も、民間工事向けを中心に依然として低調に推移し、前年割れが継続中。

このほか、生コン生産（11月）は、民間工事向けが前年を上回ったものの、公共工事向けの減少から3・6％減。木材関係も、住宅建設向け需要の不振から、生産・出荷ともに低調に推移した状況となっている。

建設関連における年間概観は、「公共工事は低水準だった前年並みに止まり、民間工事も盛り上がりを欠いた」と報告している。

16議案を非公開で慎重に討議した審議会＝鹿児島市の県庁で

第4回県建築審議会

16全議案を審議

13年度県建築審議会は26日、鹿児島市の県庁で第4回審議会を開き、建築基準法第43条1項ただし書きの規定による接道義務特例許可と第44号第1項ただし書きの規定による道路内建築特例許可など16件の付議案件を全て非公開で審議、地方公共団体からの2議案と個人案件14件を慎重審議した。

地方公共団体から申請された案件では、九州新幹線の整備に伴い、出水駅と川内駅の自由通路の建設に係わる案件を事務局から説明、慎重な審議が行われた。このあと、個人に関する14案件も慎重に審議した。

このうち、出水駅及び周辺整備事業は、15年度末の完成を目指し、年明けにも西口広場の造成と東西自由通路を発注し、駅舎を14年度早々に着手する。同事業は、出水市が西口広場（5970㎡）と東口広場（2500㎡）を整備し、東西口をつなぐ通路として東西自由通路（80m×4m）を整備するもの。

また、川内駅及び周辺整備に伴う案件では、駅の東口広場と西口広場を対象に自由通路が鉄道を跨ぎ、上り口の都市計画道路などとの兼ね合いから審議するもの。同駅の自由通路は川内市が国庫補助等を受け、出水駅と同じような日程で整備する予定。

なお、同日は小規模雑居ビルの出火などが発生したことから、本県でも雑居ビル65棟を対象に調べたところ29棟（44・6％）の違反を確認した。これは全国平均の38・4％に対し全国ベースを上回る違反率となっていることなども説明した。

鹿児島市南部清掃工場

ISO14001取得

鹿児島市の南部清掃工場が取り組んでいたISO14001認証取得が審査登録機関から認証され、26日、鹿児島市役所の市長室で登録証の授与式が行われた。

授与式には、今回の審査登録を行った㈱日本環境認証機構の今田晃関西支社長が来鹿し、「厳しい基準をクリアされました。今後とも環境に配慮した行政に取り組んでいただきたい」と言葉を添えて、赤崎義則市長に認定証を授与。

赤崎市長は「清掃工場単独での認証登録は九州では福岡市に次いで2番目と聞き、誠に栄光なこと。今回の取得は第一歩。各分野での取得を目指して参りたい」と感謝と今後の抱負を述べた。

同市は、昨年10月に環境基本計画を策定。その中で同工場における環境マネジメントシステムを図るため、環境管理責任者に橋口生男主幹を配置し、今年の4月にキックオフした。

登録範囲は、同市環境局清掃部南部清掃工場の組織全域におけるごみ焼却活動。登録日は12月19日。今後、年1回の定期審査と3年に1回の更新審査を経て、同市の行政における先駆者として環境への負担の軽減に努めていく。

今田支社長（右）から登録証を授与される赤崎市長＝鹿児島市の鹿児島市役所市長室で

お手軽で便利な購読料のお支払いは
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ